



第41回令和4年度全国高等学校弓道選抜大会

女子団体の部 ベスト16

第69回東海高等学校総合体育大会弓道競技

女子団体の部 優勝

齋藤 和音さん

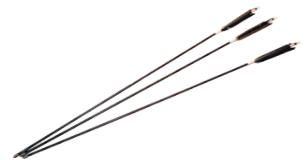


PROFILE

さいとう なお(大山・17歳)

中学生まではスイミングスクールに通い、水泳をしていた。

弓道の魅力を「格上の相手だとしてもその日の調子次第で勝負の行方は分からないところ、自分で考え、行射などを修正し上達していくところ」と話す。



小笠高校弓道部が、12月23日から25日にかけて熊本県で開催された「第41回令和4年度全国高等学校弓道選抜大会」女子団体の部で、ベスト16になった。

同部は11月12日に開かれた静岡県新人大会で男子、女子ともに団体の部で優勝し、同大会に出場した。

悔しさが残った全国大会

「全国大会に出場でき、とてもうれしいです。でも、自分の実力を発揮できなかったのが悔しかったです。不完全燃焼でした」。そう話すのは、同部2年生の齋藤和音さん(大山)。和音さんは、県の国体選手に選ばれるほどの腕前をもつ。

和音さんが弓道を始めたのは2年前。高校入学後、弓道をする先輩の姿を見て、「私もやってみよう」と強く思ったことがきっかけだった。稽古開始後は弓道の楽しさの虜になり、来る日も来る日も稽古に励んだ。和音さんは初心者だったため基礎からのスタートだったが、上達は著しく早く、1年時から同部の勝

利に貢献してきた。

「的にあてるには矢をまっすぐ射ることが大事。矢がブレないように行射(弓を引く一連の動作)の中で1つのことを意識すると、別のところがおろそかになってしまうところが課題です。いつでも完璧な矢を射ることができるようになりたい」と今大会での悔しさをバネに、次大会に意識を向けている。

日本一を目指して

過去に全国大会3位入賞などの経歴をもつ同部の稽古は、あたたかた矢の位置の傾向を分析し、行射を修正することが特徴。試合に落ち着いて臨み、ベストを尽くすため幾度となく繰り返す。

和音さんは自身の強みを「気持ちの切り替え」と話し、日頃から緊張感を持って稽古に取り組んでいる。また、今後の目標を「全国大会で優勝したい。来年度も国体選手に選ばれ、そこでも日本一になりたい」と話す。

弓道を始めて2年、まだまだ成長途中の和音さんの将来が楽しみだ。